学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区
目白1丁目5番1号
黎明会館316号室
電話 03（3986）0221内線2607
http://www-ce.gakushuin.ac.jp/~press/
press@gakushuin.ac.jp
発行・編集人　宮川雅志
年間500円

第39回大学祭開かれる

年に一度の大イベント

11月1日から3日にかけて、第39回大学祭が開催された。本年度は来場者数が約1万4千人と、昨年度からは減少したものの、大に盛り上がりを見せている。この祭を成功させようと学生たちの気迫を、ひしひしと感じることができた。

肌寒さを感じ始める頃、オレンジ色のウインドブレーカーを着た学生たちが、キャンパス内をせわしなく動き出す。この鮮やかな色合いのユニフォームを着用しているのは、大学祭実行委員会（以下、実委）のスタッフたちである。

第39回学習院大学祭のスローガンは「祭ism（マツリズム）」だ。実委のメンバーにとって祭は無くてはならないものであり、自分たちは文字通りの祭主義者だということを意味しているという。また、このキャッチフレーズには、第39回学習院大学祭にかしない「リズム」を感じてほしいというメッセージも込められているというのだ。

そうして、大学祭が始まった。連日天候に恵まれ、特に初日は暖さを感じさせるほどであった。本年度の学祭の来場者数は、およそ1万4千人。昨年度の1万6千人と比べ、やや減少したが、今年も斬新なアイデアを取り入れた出店や展示が並び、活気づいていった。

また、今年はチャリティ校舎が取り壊される関係で、その付近への立ちよりが禁止されている。それに伴い、毎年そこに設置されていたダンスや音楽のパフォーマンスのための特設ステージが軸に会館前へと移動した。このことにより、通りすがりの見物人が増えた。会場は例年にない賑わいを見せていた。

こうして、今年最後の盛り上がりの中、第39回大学祭は終了。大きなトラブルもなく、大成功を収めた。これはまさに、実委の努力が功を奏した結果であろう。河合部委員長（法3）は「後夜祭で締めくくりの挨拶をした時、この夜が明けるとみんながそれぞれの日常へと戻っていくのだと思うと、寂しさがこみ上げてきました。しかしそれと同時に、充実した日間を過ごすことができたというもうれぞれ満った輝きを持ちながら祭をくれ皆さんには、本当に感謝しています。どうもありがとうございました」と、感慨深そうに振り返った。

大学祭は昨年開催されて以来、「祭ism」というテーマを掲げた今年は、爽やかな秋晴れに恵まれ、大いに賑わいを見せた。

（左上）盛り上がりを見せる野外ライブ、大学祭を楽しむ学生達（右上）
（左下）西門での可愛らしい装飾、通りが賑わい始める昼時（右下）

活躍する学生に

学長表彰

今年の10月8日、自然科学研究科化学専攻、博士前期課程2年の岡真実さんが、学長表彰を受賞した。

表彰式は、同日午前より、西5号館6階の学長室にて行われ、表彰状と記念品が授与された。

この賞は、学習院大学学生表彰規程によると、本学学生で、学術研究活動が大変なことにおいて高く評価された者に対して、与えられるものだ。今年の3月には、自然科学研究物理学専攻、博士後期課程の南慶雄二郎さんが同賞を獲得したばかりである。これにより、同年に2名の受賞者を輩出する形となった。その他には、院長が大変なことにおいて、学術研究活動・スポーツ活動賞に大きな二名ずつ選ばれている。

今回岡本さんは、7月にフランスのリヨンで開かれた、第15回「固体における発光と、光のスペクトロコピー」に関する国際会議に参加。若手発表者の中から、日本人として唯一、ポスター賞を手に入れた。

彼女が行った具体的な研究内容は、近年急速な発展している激しいバックラッシュ（揺り戻し現象）なのだ。性と性差への認識の寛容性を過度に拒否し、既成概念の回帰を求める流れが強まっている。「しかし、この拒否には根拠が無いです。では、実体の無いものを維持しようとするメリットは何なのか。その作用を解明していきたいですね」

今後の展開

この研究は、一見すると女性や数派などの弱者を擁護するだけのものにも見える。だが、それだけではないのだ。

早稲田大学大学院文学研究科（ドイツ文学専攻）修士課程修了。89年より問題ではなく、多数派の当たり前が起こっている。94～95年アレクサンダー・フォン・フンボルト財団招聘研究員（ベルリン自由大学）

先生が共著で出版された本

学習院 研究最前線

学問研究のいま

「“あたりまえ”を疑う」

ドイツ語圏文化学科　大貫敦子教授

今回はドイツ語圏文化学科、大学院人文科学研究科身体表象文化学専攻の大貫敦子教授です。日本ではまだ定着していない文化研究と、ジェンダー研究についてのお話を伺いました。

（取材・構成　原田望美子）

◇　◇　◇

文化の定義

先生は大学でドイツ文学を専攻する中で、哲学や文化も同時に学ばれた。特に、文化が構成される問に生じる現象に、興味を持たれたそうだ。

「ドイツは国としての枠が出来るのが遅かったのです。さらに、成立後も国境線が揺れ動いたこともあり、特殊な文化構築をしています。統一国家ではなかった時代、ドイツ文化を語ることは自国を求める思想と一体でした」

文化という言葉から連想できるのは、学問や芸術といった、その国のアイデンティティとなるもの。今の私たちは、それを有益だけのものとして捉えてはいないだろうか。

「しかし実際そうではなく、力のせめぎあいによって境界付けされた文化は、同質を求めるのに加え、異質を排除する強い力をもちます。ドイツでは、それが極端なナショナリズムへと変質し、概念を排他主義に利用されてしまいました。また、日常の行動を左右するのであるのです」

ジェンダー研究

二つの領域に属しているお先は、身体表象文化学専攻ではジェンダーについて研究を行っている。ジェンダーとは、社会的・文化的に構築される性差のことである。どうしてこのテーマを選ばれたのだろうか。

「ジェンダーこそ、同質性と異質性を顕著に表すものです。男女のことは、身体が実体としてあるので、当たり前の差異と思われていますが、実体を前提にする意考こそが問題なのです。むしろ二男性性とは何か」と語られる言説の中で、主役となる男性性が、標準として形成されてきました。その一例として、女性作家は女性的感性のある作品が良い、そうでなくていい」と否定的に評価されます。女流作家という言葉はありますが、男流作家という表現はないですからね。医者や会長等法成立のように、男女平等が実現されていると感じるだろう。だが、実際には様々な不調和が生じている。

「ジェンダー研究は、女性による対等な権利の要求であるフェミニズムの拡大だけのためではなく、双方の性を問題にしているのです。ですが、これに対し見解の無いものを維持しようとする力は何なのか。その作用をも、歴史的な形成過程の中で作られたものです。日常においても意識を、当たり前を疑い、その起源を探ることができるのです」

価値観の形成を追う

「ジェンダーは少数派にとっての問題ではなく、多数派の中の当たり前が故あり続けるのかを突き詰めるものです。絶対的と思われているものが、男流作家という言葉はないというように、男女の欠如を呼ぶ、というものだ。これは現在の価値観を消されることへの不安の大きさを表す。この動きが、今人々の間で起こっている激しいバックラッシュ（揺り戻し現象）なのだ。性と性差への認識の寛容性を過度に拒否し、既成概念の回帰を求める流れが強まっている。

「しかし、この拒否には根拠が無いです。では、実体の無いものを維持しようとするメリットは何なのか。その作用を解明していきたいですね」

今後の展開

この研究は、一見すると女性や数派などの弱者を擁護するだけのものにも見える。だが、それだけではないのだ。

早稲田大学大学院文学研究科（ドイツ文学専攻）修士課程修了。89年より問題ではなく、多数派の中の当たり前が故あり続けるのかを突き詰めるものです。絶対的と思われているものが、女流作家という言葉はないというように、男女の欠如を呼ぶ、というものだ。これは現在の価値観を消されることへの不安の大きさを表す。この動きが、今人々の間で起こっている激しいバックラッシュ（揺り戻し現象）なのだ。性と性差への認識の寛容性を過度に拒否し、既成概念の回帰を求める流れが強まっている。

「しかし、この拒否には根拠が無いです。では、実体の無いものを維持しようとするメリットは何なのか。その作用を解明していきたいですね」

PROFILE

大貫敦子（おおぬき・あつこ）

早稲田大学大学院文学研究科（ドイツ文学専攻）修士課程修了。89年より問題ではなく、多数派の中の当たり前が故あり続けるのかを突き詰めるものです。絶対的と思われているものが、女流作家という言葉はないというように、男女の欠如を呼ぶ、というものだ。これは現在の価値観を消されることへの不安の大きさを表す。この動きが、今人々の間で起こっている激しいバックラッシュ（揺り戻し現象）なのだ。性と性差への認識の寛容性を過度に拒否し、既成概念の回帰を求める流れが強まっている。

「しかし、この拒否には根拠が無いです。では、実体の無いものを維持しようとするメリットは何なのか。その作用を解明していきたいですね」

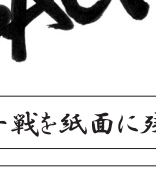
素朴な疑問

乃木館　百年の歴史

本学は緑に囲まれた広大な敷地を持ち、そこには数多くの建物が立ち並んでいる。その中には、これはいつの時代に建てられたものなのか、と思わずにはいられないものもある。そのひとつ、西1号館の南側にひっそりと佇む、木造平屋建ての近代建築があることを思い出した。近いうちに由緒正しい寄附金を醸し出している建物ですが、一体何なのでしょうか。今回はこれにスポットを当ててみたいと思います。

今からちょうど100年前の明治41年、学習院が新宿区四谷から現在の豊島区目白へ移転した際、6棟の寄宿舎が建てられました。当時の学習院長であった乃木希典（まれすけ）院長は、そこで学生と寝食を共にしたといわれています。そうして、その中の一つが「乃木館」として残されることになりました。

現在この建物は、主に部活動の活動場所となっています。また学祭期間中は、大学祭実行委員会のスタッフが寝泊まりするために使っているのです。こういった事実は少々驚くに値するでしょう。一度立ち止まり、改めて100年の歴史の息吹を感じてみてはいかがですか。（岡）



平成20年度結果

第3回新司法試験

平成20年5月に行われた第3回司法試験の結果が発表された。本学の法科大学院からは、20名が合格。うち、既修者は16名、未修者は4名となっている。

合格者は、23・0％に留まっており、決して満足できる数字ではない。だが、これまでに1期生をその6割が受かっている。3期生は初挑戦となった今回、3割以上が合格しており、来年度以降の成果が期待される。今後合格者数・合格率ともに、さらなる向上を目指していくという。

だが、法科大学院は試験に合格するための受験技術を身につける場所ではない。それだけで合格できるほどの、新司法試験はないからだ。学毒門教育を通じ、優れた学問的教養を身に付けて、法科大学院での学習に真摯に取り組む、本物の実力を身につけた者だけが、結果として新司法試験にも合格することができるのである。

これらを踏まえ、法務研究科の野坂泰司は「法学部に限らず、本学に学ぶ高い志をもった多くの学生たちが、法科大学院の扉をまって、決して満足できる数字ではない。だが、これまでに1期生は全ての出会いが教えてくれた、時間をかけて、互いの考えや価値観を学びあっていく過程は、何にも代えがたい大きな喜び▼このような出会いは、日常に豊かな彩りを添えてくれる。残された半年の大学生活の中でも、周囲の仲間達と良き経験をかちあっていきたい。そして、自己の枠に縛られずに、広く視野を持ちたい」と、強く願っている。（眠）

情報特急便

第9回就職セミナー
「内定学生による　パネルディスカッション」
日時・12月9日（火）18時～（約90分間）
場所・百周年記念会館正堂
講師・4年生代表

第20回　特別研究・研究会
「デジタル放送時代における　コンテンツ流通」
日時・12月13日（土）13時～15時
場所・西5号館302教室
講師・安田哲氏（東京大学名誉教授）
備考・聴講無料
希望者は、学習院大学計算機センター事務室まで電話（0422）39986-0221に申し込むこと。当日参加も可。

学習院大学計算機センター
第20回　特別研究・研究会
「PS細胞がつくる新しい医学
～PS細胞の可能性を未来へ～」
日時・11月27日（木）18時～19時30分（開場17時）
場所・百周年記念会館正堂
講師・京都大学　山中伸弥教授

桜友会特別フォーラム
「PS細胞がつくる新しい医学
～PS細胞の可能性を未来へ～」
日時・11月27日（木）18時～19時30分（開場17時）
場所・百周年記念会館正堂
講師・京都大学　山中伸弥教授

プロジェクト共催国際シンポジウム
「リモートセンシングと　東アジアの環境変化の可能性」
日時・12月9日（土）10時～
場所・西2号館401号室
講師・安田哲氏、（東京大学名誉教授）
備考・聴講無料
希望者は、学習院大学計算機センター事務室まで電話（0422）39986-0221に申し込むこと。当日参加も可。

明恕浄抗

本学に入学してから親しくなった、大切な友人がいる。今では彼女がいない大学生活なる考えられない、唯一無二の存在である▼この友人と親密になったきっかけは、二人で美術館を訪れたことだった。同じ展示内容を観ていても、どの作品を気に入るのかは重なったり違ったりと様々だ。そんな中、私がさして目を引いていなかった絵を、彼女はじっと眺めていたのだ。率に話していくうちに、私と一人では分からなかったその絵の魅力が、とても新鮮なものとして理解できてくるのである。気づくことのなかった色彩、モチーフの表現らしさが、彼女の目を通して伝わってきたのだ▼それまでの私は、どちらかというと大胆の事は一人で済ませ、自分自身の世界で満足だけで満足していた。しかし、たった一枚の絵を取ってみても、誰かと共有することで、新たな発見を増して感じられるかということを、彼女との出会いが教えてくれた。時間をかけて、互いの考えや価値観を学びあっていく過程は、何にも代えがたい大きな喜び▼このような出会いは、日常に豊かな彩りを添えてくれる。残された半年の大学生活の中でも、周囲の仲間達と良き経験をかちあっていきたい。そして、自己の枠に縛られずに、広く視野を持ちたいと、強く願っている。（眠）

学習院大学新聞

芳林堂書店

BOOKS HORINDO

2・3　大学祭　開催
紙面紹介
4　準硬式野球部奮戦
みやっちFC

11月初旬、第39回大学祭が開催された。「祭ism」というテーマを掲げた今年は、爽やかな秋晴れに恵まれ、大いに賑わいを見せた。

秋季リーグ最終戦。本学は明治薬科大を相手に、負けずあらすの激闘を繰り広げた。結果、14-12で見事勝利を手にした。

女性の多くは、優柔不断な男性を嫌うらしい。男の私から見ても、男は決断力がなくてはならないと思うぞんなことを思いながら日も、飲み物の自動販売機のボタンを2つ同時に押してしまいました。（岩）

前夜祭

【特設ステージ】前夜祭では御輿の華やかさなどを競う、御輿コンテストが行われた。今年は7団体の出場に加え、中南米研究会も毎年恒例の目白通りの練り歩きに参加。御輿を担いだ団体とともに夜の通りを大いに騒がせた。

午後6時、大学祭実行委員長の開会宣言で前夜祭が始まった。仮装をした司会者が、応援団からのエールや、採点対象でもある御輿PRなど、スムーズに祭りを進行させていく。ステージでの催しを終え、一行は正門に移動。通りに出た参加者はこの日一番の賑わいを見せた。

表彰式に移ると、周囲の雰囲気は期待と不安で包まれる。結果、『20世紀少年』に登場する巨大ロボットがモチーフの御輿を担いだマイスターが優勝の栄冠に輝いた。その後、鏡割りが行われ、無事に前夜祭は幕を下ろした。（石井康祐）

11/1

満喫！プロの笑い お笑いライブ


個性豊かな3組　左からオオカミ少年、ジョイマン、ハローケイスケ

【西5—B1】初日の昼下がり、お笑いライブが開催された。本学の学生に限らず多くの人が詰めかけ、立ち見まで出る盛況ぶりであった。

高揚した空気の中、まずはオオカミ少年が壇上へ上がる。開口一番、2人はコンビ名にちなんで嘘をつき、見事に騙された観客はどよめく。種明かし後の「いろいろな学園祭に出ていますが、今までで一番反応が大きかったですよ」の一言に、周囲は照れ笑い。客を一気に引き込む『ツカミ芸』を成功させ、本腰のネタに入る。「ドン、ドン、ドンドドン」という節に乗せ、応援団の振りに似せた、息の合った動きを見せる。ダジャレやショートコントを織り交ぜたメリハリのある展開で、観客を笑いの渦へと誘い込んだ。

一組目の威勢の良さとはうって変わり、落ち着き払って登場したのは、ピン芸人のハローケイスケ。ひたすら客にアンケートをとり、当てはまる人には挙手させるという一風変わった芸風を持つ。質問は「学習院大学の学生の方は？」という一般的なものから、次第に少数意見へ狙いを定めていく。「缶ジュースの『振って』から空けてください」に、空けてから気付く」など、どこか身に覚えのあるような質問が続く。日常のふとした瞬間を切り取った問いかけに、笑いをこらえる姿が目についた。手を叩いて爆笑するというより、くすりと笑わせる不思議な空気を漂わせる。

最後に登場したジョイマンには、一際大きな歓声が起こった。ボケ担当の高木の個性の強さが人気を呼んでいる。小刻みに動きながら、「アンパンマン、肥満」など、韻を踏んだ語句を連ねた無気力なラップを披露するのがお決まりだ。その姿は、一度見たら忘れられないインパクトがある。相方のツッコミを気にも留めず、陽気にラップを歌い続ける様子に、笑い声が絶えることはなかった。

ライブ終了後はサイン色紙の抽選会があり、出演者と観衆が手を振り合う微笑ましい一幕も。日頃は静けさを保つ教室が、この日だけは笑顔と活気で溢れていた。（深田杏）

焰が映し出す夜能 薪能（たきぎのう）

【特設ステージ】冬の訪れを予感させる寒空の下、薪能が催された。これは観世会部・能楽研究会による、野外での能である。珍しい出し物に、多くの人が集まった。

薪能とは、夜間に野外に設置された舞台上で演じられる能の一種である。責任者である北條友貴さん（仏3）が「こだわったのは舞台の設備、演出ですね」と胸を張るだけあり、畳や金屏風が取り付けられた舞台は見事な出来であった。特設ステージ周辺は、昼間とは違った幻想的な雰囲気に包み込まれた。照明として、電灯ではなくかがり火を利用していたのも、薪能の持つ神秘的な空気を醸し出すのに一役買っている。

「今夜は、外で演じられる機会を利用し、普段は敬遠してしまう方にも能の奥深さを堪能していただきたいです」とも語る北條さん。その言葉通り、初心者でも楽しめるように、あらすじや部員の意気込みが載せられたパンフレット配布などの心配りが見られた。

開演すると、広場に部員達の朗々とした謡い声と足拍子の音が響き始めた。演目の選考も観客を魅せることを意識している。派手な動きで場面が分かりやすい『岩舟』から始めることで、出だしから観る者を惹きつけた。その後も『歌占キリ』という同じ演目を流派ごとに演じ、型の違いを楽しませる演出が行われる。宝生流・金春流・観世流の三派が一堂に会しているチャンスを存分に生かした題目の選出だ。ラストは加茂神社の雷神の威光が光る『加茂』。舞手と謡い手が声を揃えて謡い、迫力ある閉幕となる。

一夜で16の演目が演じられたが、中でも特に観衆を沸かせていたのは、金春流『鞍馬天狗』だ。派手な音を伴っての足拍子。両手を広げて、舞台の端から端へと駆ける。そして、飛び上がり身を翻してみせるなど、悠々と飛翔する天狗を、雄々しく演じきった。

観客は、底冷えする夜風に身体を、幽玄な仕舞に心を震わせていた。この夜の公演を機に、日本の伝統芸能の魅力に取りつかれた人も多いに違いない。（菊岡真衣）


かがり火が醸す幽境の風情

平安の恋演じる 源氏物語


絵巻物から抜け出したような演者達

【西2—201】「貴社の記者は汽車で帰社」は、日本語日本文学科の4年生による有志団体だ。日本文学を演劇にすることで、その面白さを知ってもらおうと平成17年度に発足。今年はこれまでの集大成として、『源氏物語』の上演に挑戦した。

大長編である原作を全編上演するに当たって、考え出されたのが三幕構成というスタイルだ。壮大な物語が3つに分けられ、それぞれ独立して観劇できるものとなっている。幕開けとなる「輝日宮」は、光源氏の誕生から、その青年期における恋模様が中心となる一幕だ。続く第二幕「若菜」では女三宮と柏木の不義密通、第三幕「夢浮橋」は、光源氏亡き後の無常観溢れる世界が描かれている。

会場となった教室は、平安時代の世界へと誘う演出に満ちていた。客席に入ると、仄かにお香の芳しい香りが漂っている。舞台の右側では箏と三味線の生演奏が行われており、実に雅だ。やがて、箏奏者の「いづれの御時にか……」という有名な原作の冒頭文の語りで、上演が始まる。

平安装束を煌びやかにまとった源氏や女人達が現れると、その優雅さに観客は思わず見惚れる。現代語の台詞に原文の語りが付き、古典の風流さはそのままながら、理解しやすい。寝殿造りを意識した舞台装置は、引き戸式の御簾が場面転換を効果的に表していた。愛を語る場面では和歌も詠まれ、目の前で繰り広げられる一千年前の恋物語に、引き込まれていくような好演であった。

日本文学の最高峰である『源氏物語』には、発足時から挑んでみたかったのだと、代表者の横掘泉さん（日4）は語る。難度の高い古典をアレンジしすぎて別物にせぬよう、手探りで創り上げていったそうだ。華やかな舞台の裏には、並々ならぬ努力の日々があったに違いない。

メンバーは来年で卒業を迎えるため、大学祭での公演は今回で最後となる。しかし、日文科の教授達の強い希望で、年明けの2月最終週に再公演の予定があるという。来たるグランドフィナーレに、期待は高鳴るばかりだ。（市川美奈子）

中夜祭

【特設ステージ】昨年は開かれなかった中夜祭だが、今回は復活。ミスター・ミス&そっくりさんコンテストが開催された。

先に行われたのが、男子が女装をしてパフォーマンスを見せるミスターミスコンテスト。メイド服やセーラー服で着飾った男子が自己PRを行うと、会場からは苦笑いが起こった。そんな中、出場6団体のうち、漫画研究部から出場した「真剣20代」の3人が見事1位の座を手に入れる。優勝したことを初めに誰に伝えたいかと聞かれると、「飼っている猫に伝えたい」と可愛らしいコメントを残した。

そして、5組が出場したそっくりさんコンテストの方では、個性的な面々が揃った。戦いを制したのは、エアあややならぬエアしょこたんの演技で会場を魅了したアナウンス研究会の武本沙緒里さん（哲1）。中川翔子さんと瓜二つの彼女がパフォーマンスを始めると、観衆は大いに盛り上がった。来年の中夜祭の行方は、どうなるのだろうか。（石井康祐）

展示

鉄道研究会

【西1—104】今年度、鉄道研究会は今までにない二つの要素を引っ提げて我々の前に姿を現した。キオスクを模した売店の設置がその一つだ。駄菓子と飲み物を販売しており、駅のような空気を感じて展示を見てほしいという気持ちの表れだという。

もう一つは、首都圏一周の旅の記録と、IC乗車券の考察を記した模造紙の展示だ。旅の記録は、電車を乗り継いで訪れた場所と、その電車への熱い想いがひしひしと伝わってくるものに仕上がっている。IC乗車券の考証も企業、乗客、マニアそれぞれの視点でメリットとデメリットが考えられている。そのため、どんな立場の人も興味をそそられるようになっていた。

そして、メインとも言える鉄道模型は昨年度より一層パワーアップ。普通電車と新幹線はもちろんのこと、自動車や山、樹木まで細かく再現されており、見る人を感心させていた。さらに驚くべきことがある。車両に発光装置が組み込まれ、部屋を暗くすると、夜の闇を疾走する電車の美しい姿が浮き上がるのだ。

他にも、駅員の制服を着て記念撮影ができたり、『電車でGO!』の運転体験コーナーがあったりと、内容は盛りだくさん。大人から子どもまで楽しめる和やかな雰囲気で、会場は大いに賑わっていた。（小畑裕輝）

美術史研究会

【西1—109】美術史研究会出店のスリランカカレーを満喫し、いざ、「ルーブル美術館展」へ。展示教室で最初に目を引いたのは窓である。そこには、部員達が力を合わせて制作したステンドグラスが飾られている。担当者に話を聞くと「作り始めた時は出来上がるか心配でしたが、無事に完成させられて今はとても感動しています」と、満足そうに答えてくれた。訪問者は、光を透かして輝くステンドグラスの美しさに舌を巻いている。

また部屋の中央には、ピラミッドの模型が飾られている。ルーブル美術館のガラスのピラミッドと、本学のピラミッド校舎を重ね合わせているそうだ。一方、壁には調査班のポスターの展示。そこでは『サモトラケのニケ』等の他作品を詳細に掲載している。ルーブルが誇る数多い所蔵品の中から選ばれた、代表作品を知ることができるのだ。

部長の西澤雅人さん（法3）は「全員で団結した結果、予想以上の出来に仕上げられました」と語る。その顔には誇らしげな笑顔が浮かぶ。

今年は一日に約250人の来訪者を迎える盛況だった。多くの人が彼らの努力の結晶に感嘆し、異国のルーブル美術館へ想いを馳せたのだろう。（菊岡真衣）

手話サークルのぞみ

【北1—301】普段は教室として使われている部屋が、可愛らしい色とりどりの装飾で大変身していた。そんな場所で手話劇を上演したのは、手話サークルのぞみだ。

毎年、1年生を主体として演劇を行っているのぞみ。今回挑戦するのは、誰もが知っている童話『白雪姫』。しかし部員達でアレンジしたものということで、展開が読めず目が離せなかった。またストーリーだけでなく、演技に、要の手話にと多くのこだわりを含んだ内容だった。

劇が始まる前に、劇中に登場する単語の手話での表し方を、演者達が丁寧に説明してくれる。例えば、「白雪姫」のレクチャー。まず、自分の歯を人差し指で指し、次に雪の丸い形を表す。その後に、娘という意味で小指を挙げる。観客は、見よう見真似で実際に手を動かしていた。手話に関して予備知識がない人でも、その場で学ぶことが出来たようである。

全体指導をした会長の星野智美さん（済3）は「この公演をきっかけに、手話に興味を持つ人がもっと増えてほしいです」と語る。そのため、誰でも楽しめる公演を目標としていたそうだ。こういった工夫により、多くの来場者が満足する見応え十分の力作となった。来年も、独創的な彼らの作品に期待したい。（木村明子）

探検クラブ

【西1—207】探検クラブが展示する教室は、部屋中がすごろくのマスになっていた。さいころを振って出た目の数を進むと、部員が体験した旅の足跡を辿ることができる。教室には実際に使用されているテントやカヌーが置かれ、壁には思い出の写真がずらりと並ぶ。

多くの写真の中で特に印象深いのが北海道の釧路川で撮られたものだ。壮大な台地と川のコントラストはまるで別世界。カヌーを漕いでいる部員達の姿は躍動感に溢れ、笑顔が眩しいほどに輝いていた。

「ただの展示ではつまらないと思い、考案したのがすごろく。子どもにも楽しんでもらいたいと思いました。皆さん、20〜30分は見てくれますね」と主務の佐々木彩乃さん（営3）は話す。

探検クラブの部員は全部で20名ほど。佐々木さんが入部した当初、女子は1人だけだったが、今では7人もいる。少しでも多くの人達に探検クラブを知ってもらいたい。その一心で今年の展示を出したそうだ。普段の活動は怪我の処置の仕方や、地図の見方などの講習会を開いている。

先輩から後輩へ、ものと知識を受け継ぐ精神を大事にする探検クラブ。来年の大学祭では新たな旅の歴史が生まれていることだろう。（橋本茉莉菜）

秋を彩る優美な舞 社交舞踏研究会

【富士見ホール】今年も社交舞踏研究会の「秋の舞踏会」が開催された。この舞踏会は、来場者も踊れるダンスタイムの後に、部員がデモンストレーションを行うものだ。

始まりはルンバからである。ラテン音楽の陽気な調べに合わせて、3組のペアが一糸乱れずに踊る。そんな彼らを色とりどりの照明が華々しく演出した。

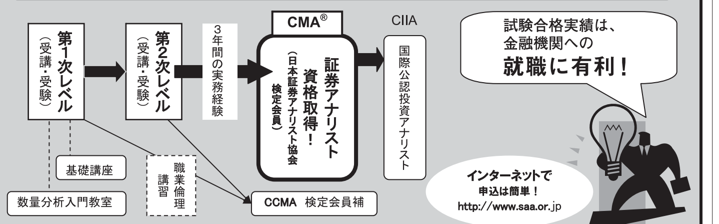
次のダンスはワルツ。ゆったりとした曲調の中、床の上を滑るかのような動きで、観衆を魅了していく。この踊りを習得するために、ステップ、リズムといった基本的なものからダンススクールで学んだそうだ。練習の甲斐あって、文句のつけようがない立派なものとなっていた。

3曲目のタンゴは動きの激しい情熱のダンス。ダンサー達は情熱を表現する難しさや不安を感じていたという。しかし本番では、そんなものは吹き飛ばし、自信の無さを感じさせる素振りは微塵もなかった。それに続くチャチャチャでは、明るいメロディに乗り、華麗な出立ちで楽しげに踊ってみせる。

そして舞踏会のラストを飾るダンスは、ここまでとは趣向が少々異なっている。オペラ『カルメン』をショー形式のダンスで表現するというのだ。まずは漆黒の衣装を着た女性が登場。主人公のカルメンだ。彼女は恋人と、互いに愛おしそうに踊る。だが移り気なカルメンは、途中から登場したもう一人の男を選んだ。そのために、嫉妬に狂った最初の恋人に殺されてしまう。彼女の亡骸は彼の腕の中、真っ赤なライトで照らされる……。その完成度、再現度の高さに会場は静まり返った。

公演を終えた部員達には、大きな拍手が送られた。部長の山中崇子さん（日2）は「ダンスの練習だけでなく、メイクや衣装の準備も大変でした。ですが、その分どのパートの出来にも満足です」と、その顔に達成感を浮かべ語った。実に様々な種類のダンスを披露し、見事に会場を沸かせた彼ら。次の公演は来年4月のオール学習院の集いで開かれる「春の舞踏会」だ。きっと次の公演でも、その技術に磨きをかけ、より素晴らしいものを見せてくれるに違いないだろう。（小畑裕輝）


悪女であるカルメンを如実に表現



第39回 大学祭 祭ism 特集

溢れる躍動感 Hearts


生き生きとした表情で美しく舞うHearts

【富士見ホール】結成4年目、女性14人のダンスサークルHeartsによるパフォーマンスが行われた。彼女達の今回の公演テーマは「人を感動させるパフォーマンスを目指す」ことだという。その言葉通り、エネルギッシュで、心に響くステージであった。

オープニングはヒップホップから始まった。ノリの良い曲に、リズミカルなダンスを序盤から繰り広げる。凛とした格好良さがある、息の揃ったダンスだ。中盤では、黒の衣装に映えるゴールドとシルバーのアクセサリーを揺らし、魅せるダンスで人々を惹きつけた。また、側転や開脚といったアクロバティックな動きを披露する一幕もあるなど、彼女達は実に多彩な表情を見せてくれる。

チアリーディングの定番曲『U.G.L.Y』では、曲に合わせたカラフルな衣装と手に持ったボンボンが、アメリカのチアガールを思い起こさせる。ボンボンを生かした大きな腕の動きや軽快なダンスは爽やかで、会場を一気に明るくさせた。

その後、ポップな衣装からがらりと変わり、ドレッシーな黒のドレスで現れる。バレエの要素を取り入れた上品な踊りの中に可愛らしい振りも見られた。このように、曲のイメージにとらわれない振り付けが見る者を飽きさせない。そしてフィナーレが近づくと、ブロードウェイさながらのラインダンスで会場の盛り上がりは最高潮に。

リーダーの小田喜智子さん（営3）は公演後、「みんなで協力して納得いく公演ができてとても嬉しいです」と、目にうっすら涙を浮かべながら語った。約半年間、週2回の練習がこのパフォーマンスを支えている。「人数が少ないからこそ、みんなで本当に一致団結できました」と、ともすればマイナス要素になってしまう14人という少人数を、プラスに受け止める小田喜さん。この前向きな姿勢がHeartsのメンバーにも伝わり、観客を魅了し元気づけるステージを創り上げたのであろう。

激しいダンスで息が切れても、心からの笑顔で踊る。何より、楽しそうに踊っている彼女達の姿にパワーを貰ったひと時であった。（福田美緒）

11/2

4人で描く魂の歌 COLORライブ

【百周年記念会館】COLOR、それは音に想いを乗せた4人組ユニット。今年のゲストである彼らはEXILEのATSUSHIさんによってプロデュースされた、本格派コーラスグループだ。メンバー全員がヴォーカルであり、そこから生まれるハーモニーは無限の可能性を秘めている。

大学祭2日目、ライブ会場に変身した百周年記念会館は、学生やファンで2階席まで埋め尽くされた。会場に漂う熱気から、彼らの人気の高さがうかがえる。

今か今かと客席がざわつき出した開演時間、突如照明が落とされ、空間いっぱいに美しい4人のコーラスが響き渡った。途端に場内の観客は総立ちになり、1曲目『Night for you』が始まると、大音量の黄色い歓声が巻き起こる。そして『Midnight call』『X-Girl』などアップテンポな曲の連続がさらに聴く者の心をとらえ、高めさせた。

COLORのライブを初めて観た者は、早くも4人の生み出す見事な調べの虜になる。一方、昔からのファンは生で聴く彼らの歌声を堪能し、感激していた。

そして、MCを挟んだ後に彼らが歌ったのは、家族愛をテーマにした『青い鳥』と、バラード『涙が落ちないように』。しっとりとしたこの2曲は、歌詞に込めた郷愁や恋情が聴く人の心の琴線に触れていく。先ほどの熱狂とは一転、穏やかなメロディに観客は魅了され、静かに聴き入っていた。

感動の余韻を残しながらも、公演は止まらない。7曲目『Make It Hot』の激しい曲調と、4人が舞台の前方に身を乗り出すという粋なパフォーマンスにより、場内は一気に再加熱。そして『24karats-type C-』の低音のイントロが流れた瞬間、客席は一層大きく沸き、この日一番の盛り上がりを見せる。

熱唱の後、改めて彼らの自己紹介が行われる。そこでメンバーの一人であるTAKAさんは「COLORの活動方針は1日1日を大事に生きよう、というメッセージを歌に乗せて伝えることです」と語った。その想いはこの後の『Call My Name』『Blue sky』にて、観客は身を持って実感させられることになる。確かに彼らの歌は温かくもどこか切なく、しかし前向きに生きようとする明るさを持っているのである。

そして最後の曲は、ウェディングソングである『For you ~ blue tears~』。その甘い旋律を柔らかに歌い終えるも会場の興奮は冷めやらず、自然とアンコールが沸き上がった。それに応じて戻って来てくれた彼らは『Tell Me It's Real』と新曲『Miss you』を伸びやかに歌い切り、白熱のライブに幕を下ろした。

その名の通り、様々な音色を持つCOLOR。彼らの心の込もった歌声は学祭に鮮やかな彩りを加え、来場者に爽快で暖かい風を吹かせてくれた。（大原梨句）


COLORの力強い熱唱により、会場全体が彼らの色に染まる

可能性を実現へ 丸山和也氏 講演会


笑いを織り交ぜながら語る丸山氏

【西2—201】毎年国際政治研究会によって開かれる『時局講演』。今年の講師は、メディアで幅広く活躍する丸山和也氏だ。弁護士、芸能活動、参議院議員の三本柱で多忙を極める。彼の来訪に多くの聴衆が集まった。

丸山氏が会場に現れると、盛大な拍手が鳴り響く。そして、「ここへ来る前に麻生首相にお会いしてきました。気楽に聞いていただきたいです」との挨拶。丸山氏らしい和やかな雰囲気で、終始笑いが絶えない。

まず、自身の大学生時代の生活を、アドバイスと共に語ってくれた。下宿をして大学に通った丸山氏。そこで一緒に住んでいた相手が、急に司法試験を目指しだしたという。それに付き合う形で勉強に取り組んだのが、だんだんと六法全書にのめり込んでいく契機となったのである。

その話の中で印象的だったのは、「1%の可能性があればできる」という言葉。何でも、そう簡単にあきらめてはいけないと、丸山氏はしきりに訴える。

3年前に行われた24時間マラソンも、あきらめない気持ちで挑んだそうだ。そこから、新しい世界に飛び込み、自分流に試みるのが最大の挑戦だ、という考えが生まれた。丸山氏は10年後にもう一度走り、最高齢ランナーとなることを志すと述べた。そのために、今も週に3回ほど走っているとのことだ。

また、丸山氏は芸能界でも活動の場を広げている。2006年には演歌のCDのリリースをも成し遂げた。この講演会でも、サービスでワンフレーズを歌う。思いがけず、丸山氏曰く「幻の名曲」を聴くことができた観衆は、大いに楽しんでいた。

さらに丸山氏の挑戦は止まらず、国民に向けて斬新な企画を予定しているという。それは「丸山よさこい隊」というチームを作り、日本中を練り歩くこと。今年の8月に高知県に行った際にひらめいたそうだ。隊員は老若男女を全国から広く募集する。目的は国民の近くで感性を共有し合い、国会で意見を述べる糧とすることである。興味のある方は、ぜひ参加してみてはどうだろうか。

限界を作らず、様々な可能性に挑み続ける丸山氏。彼が今考えていることを知る有意義な時であった。彼の、これからの動向に注目したい。（木村明子）

11/3

ティアラは誰の手に ミスキャンパス

【百周年記念会館】広告研究会主催の『ミスキャンパス学習院』が今年は「ナチュラルビューティー」をテーマに開催された。最終選考に残った6人の姿を一目見ようと、会場には大勢が足を運んだ。今年はゲストとして柳沢慎吾さんが登場。「どーもー」と持ち前の大きな声で挨拶し、序盤から冗談を交えたトークで客の心を掴んだ。

そして、いよいよミス候補者達の入場。照明が落ち、客席後方からスポットライトに照らされて、振袖姿の美女達が現れた。鈴木葵さん（法3）は171㌢の長身を生かして、黒地に金の花柄の振袖を見事に着こなし、一際舞台で存在感を放っていた。また着付け教室に通う橋本茉莉菜さん（英2）は、大好きな着物が着られるこの日を心待ちにしていたと嬉しそうだ。振袖にもそれぞれの個性が表れ、色とりどりの和の色彩が舞台に花を添える。

まず始めに、彼女達の理想のドライブプランがプレゼンされた。須藤真里奈さん（政2）は「友人と河口湖に行き、湖面に映る富士山や夕日を眺めながら語り合いたい」とロマンティックな提案をした。また、他の候補者達とドライブをしながら、人生における助言を聞きたいと語った山木礼子さん（済2）は「謙虚な姿が素敵」と柳沢さんから賞賛を受ける。

続いて、ハイスピードカメラで彼女達自身がお互いを撮り合った映像が流された後、候補者達はお色直しのため一旦退場。その間、映画研究会が手がけたプロモーションビデオが上映された。泉水はる佳さん（政3）の作品は、浴衣姿で歩くシーンや、観覧車から夜景を見降ろすシーンなどがあり、上品な大人の魅力満載に仕上がっていた。辻井雅恵さん（営3）の作品では、青空の下で動物と戯れたり、シャボン玉で無邪気に遊んだりと、自然体の彼女がスクリーンに映る。そこには、ラクロス部に所属する彼女らしい活発で健康的な姿があった。

それが終わると、再び花道から主役達の登場である。今度は純白のウェディングドレス姿だ。慣れない装いに照れながらも、緊張の面持ちで歩む彼女達。ステージにはまるで輝く天使が舞い降りたようだ。そうして会場の熱気も最高潮に達したところで投票の時間となり、ついに待ちに待った結果発表だ。始め、準ミスに須藤真里奈さんの名前が呼ばれる。須藤さんは、満面の笑みで「皆さんに楽しんでもらうために今まで頑張って良かった」と達成感に浸った。

とうとう栄えあるミス学習院の発表の時が来た。会場が静まり返り、誰もが息を潜める中、名前を呼ばれたのは辻井雅恵さんである。発表の瞬間、祝福の歓声が飛び交った。驚いた様子で「ありがとうございます。実感が湧かないです」とはにかむ辻井さん。爽やかな笑顔が魅力的なスポーツガールに栄光が輝いた。

終了後、辻井さんは「部活とミスコンの両立が大変でした」とこれまでの日々を振り返った。今後は今まで部員に迷惑をかけた分、ラクロスに全力を注ぎたいと語る彼女。その眼差しからは、何事もやり遂げる芯の強さを感じた。これこそが彼女の美しさの原点だろう。まさにテーマである「ナチュラルビューティー」に相応しい受賞となった。（春山紗樹）


橋本茉莉菜さん


辻井雅恵さん


泉水はる佳さん


須藤真里奈さん


山木礼子さん


鈴木葵さん


トークが弾む柳沢さん


ミス学習院に輝き、花束を手に微笑む辻井さん

めぞふぉる亭 音楽部

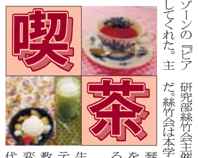
【西2—401〜406】優雅な音楽に身を委ね、静かなひと時を過ごす。「めぞふぉる亭」は音楽部による喫茶店のことだ。

入口には色とりどりのバラの花で飾られた「mf」という文字。くつろげるスペースとして、いくつかのテーブル席が設けられている。壁には葉のレースが飾られ、洋風の空間が広がっていた。ウェイトレスが客を迎え、ケーキとお茶が運ばれてくる。お菓子はチョコやチーズケーキ、プリンなど種類が豊富で見た目も可愛らしい。しかもすべて部員の手作りだという。

今回取材したのは、チェロ、ヴァイオリン、ピアノのアンサンブルだ。メンデルスゾーンの『ピアノトリオ』を披露してくれた。主旋律を奏でるヴァイオリンと、それを支えるチェロとピアノのハーモニーに癒される。

「アンサンブルはそれぞれの個性が生かされ、部員達が大きく成長する機会でもあります」と代表の納谷真由美さん（営2）は語る。少人数で演奏する機会はこの「めぞふぉる亭」しかないため、彼らの思い入れも強いようだ。

私たちは日々の喧騒に慣れてしまっている。しかし弦楽器の温かい音に包まれ、手作りのケーキを口にし、クラシックな世界に浸ることができた。（橋本茉莉菜）



和風喫茶「庵（いおり）」 絲竹会（しちくかい）

【西5—301・302】大学祭中、西5号館の一室から流れ来る古風な音色の誘惑。三曲研究部絲竹会主催の和風喫茶「庵」だ。絲竹会は本学の中でも珍しい、琴や三味線、尺八を奏でる部活である。

店内では優美な生け花と、和柄のテーブルクロスが教室の雰囲気を一変させていた。千代紙を切り抜いて作った花が壁を彩り、そこに和の空間が出現する。

教室正面ではシックな服装で決めた部員達が、次々と雅な音楽を披露していく。『虫の武蔵野』『六段の調』『さらし』など、情緒溢れる楽曲で訪れる人々に和楽器の良さを伝える。両親に連れられた小さな子どもも静かに聞き入るほどの素晴らしい演奏であった。

そんな調べとともに提供される和菓子の中から、おすすめだという抹茶オレフロートとクリームあんみつを注文。甘いあんこと白玉のバランスが取れたあんみつは、上に乗せたアイスクリームと共に、甘過ぎず上品な味わいだ。テーブルの上には楽曲の解説冊子が置かれ、日常で和楽器に触れない人への配慮も忘れない。客層は家族連れや年配の人が多いのだという。

教室から見える学習院の木々と三曲の音を聞きながらいただく和菓子。日本人としての喜びを感じる瞬間であった。（福田美緒）

後夜祭

【特設ステージ】最終日に行われたG-fesに、今回は世界民謡研究会・音楽愛好会・フライングハウス・軽音楽部の4団体が参加。秋の寒さを吹き飛ばすように、大観衆の前で力強い歌声を披露する。

どの団体も弾けるような歌を歌っていた中、トリを務めた軽音楽部の美声が目立った。最後に演奏されたのは、HYの『モノクロ』。観衆はその心地よい旋律に聴き入り、曲が終了すると会場からは大きな拍手が送られた。

G-fesの後、ステージでは後夜祭が始まる。そこでは、学内で採られたアンケートで学習院ナンバー1を決める「学習院No.1コンテスト」の発表が行われた。このコンテストでは、「出店」「室内」「公演等その他」の3部門で栄えある学習院ナンバー1が決められる。

その結果、出店部門では中国留学生の会が選ばれた。出店では本格的な餃子が出され、多くの人の舌を満足させたようだ。室内部門の第1位に輝いたのは、ノリのいい音楽で、人々の耳を楽しませたスカイ・サウンズ・ジャズ・オーケストラ。そして、講演会・アトラクションを含むその他の部門については、キレのあるダンスで観客を魅了したNO X-itが選出された。

結果発表が終わり、祭りもクライマックスに突入していく。最後はスカイ・サウンズ・ジャズ・オーケストラのリズミカルな演奏と一緒に、今年の大学祭は大団円を迎えた。（石井康祐）

構成
筒井久実子
美馬　香織
レイアウト
筒井久実子
取材
石井　康祐
市川美奈子
大原　梨句
小畑　裕輝
菊岡　真衣
木村　明子
橋本茉莉菜
春山　紗樹
深田　杏
福田　美緒

CAMPUS GUIDE

●落語研究会
「秋のめじろ寄席〜四回生引退記念寄席」
日時：11月27日（木）
　開演　17時
場所：池袋豊島区民ホール
料金：無料
内容：八百長しません。

●シェイクスピア・ドラマ・ソサエティ
「2008年度　秋公演」
日時：12月13日（土）
　14日（日）
場所：富士見会館ホール
料金：500円
内容：演目「How to tame 暴れ馬」W.シェイクスピア原作「じゃじゃ馬ならし」より
高校生たちが繰り広げる、不器用で痛快な恋愛物語。

●音楽部
「学習院大学輔仁会音楽部第52回定期演奏会」
日時：11月24日（月）
　開場　17時
　開演　17時30分
場所：東京芸術劇場
料金：全席指定1000円
内容：サン＝サーンス作　歌劇「サムソンとデリラ」より「バッカナール」
フォーレ作「レクイエム」
マーラー作　交響曲第一番「巨人」
指揮者に末廣誠先生をお迎えします。

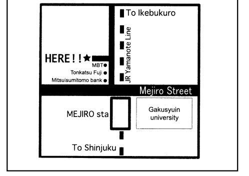
●輔仁会雑誌編集委員会
「雑誌配布」
日時：12月中旬
場所：西門周辺
料金：無料
内容：輔仁会雑誌は、学習院のことをよりよく知ってもらうための場として、毎年様々な企画を掲載しています。

社告
CAMPUS GUIDE 募集のお知らせ

キャンパスガイドでは、学内外で行われる部活動およびサークルのイベントを紹介しています。

多くの学生が目を通す大学新聞にあなたが所属する団体の情報を掲載してみませんか？

学習院大学新聞社　3面



尽力の末に掴んだ勝利

準硬式野球部

輝き見せた堅実な攻め

相手に得点の追随を許さず、中盤からキレの良い制球を見せた今野主将

10月19日、明治薬科大学清瀬キャンパスクラウンドにて秋季リーグ最終戦、対明治薬科大戦が行われた。この試合は、勝ち越しを懸けた大一番である。序盤から2進、1退の攻防が続き、途中盗塁されるも本学は着実に点を重ね、結果14-12で勝ち星を挙げた。

本学が先攻となりゲームが始まると、初回から相手を圧倒する。試合前、「最終戦、対明治薬科大戦が行われた。この試合は、勝ち越しを懸けた大一番である。序盤から2進、1退の攻防が続き、途中盗塁されるも本学は着実に点を重ね、結果14-12で勝ち星を挙げた。

本学が先攻となりゲームが始まると、初回から相手を圧倒する。試合前、「最終戦、対明治薬科大戦が行われた。3番目となる今日の相手は東京理科大。布田翼次郎主将（化4）は「昇格するには今日勝たなくては望みが薄くなってしまいます。まずはこの試合に勝って、次へのステップアップを図りたいですね」と先を見据えて話す。また、「相手に強出しで手を遠手がいるので、彼に得点させないようマーク気をつけます」とも付け加えた。

「氷上の格闘技」とも呼ばれるアイスホッケー。試合が始まると、選手たちがぶつかり合う激しい攻防が展開された。本学は足を正的ないよう走りを意識したプレーでゴール前までパックを運ぶ。相手方も、パスで繋ぎ、序盤の攻めは互角であるかのように、先制打者のえんたどころ近井和幸選手（法2）が中前安打で出塁。後続も打て続き、早くも1点を先制した。本学の勢いは、その裏では、藤間貴大投手（政1）が落ち着いた投球を見せ、無失点に抑え、さらに二回表には坂本地選手（法1）と田口健太朗選手（仏1）の連打に加え、四球が続く、満塁を迎えたところで、青木康至選手（法2）が点適時打を放ち、2点を追加する。

（続き）

11月21日、東大和スケートセンターにて関東大学アイスホッケーリーグ戦が行われた。3番目となるこの日の相手は東京理科大。布田翼次郎主将（化4）は「昇格するには今日勝たなくては望みが薄くなってしまいます。まずはこの試合に勝って、次へのステップアップを図りたいですね」と先を見据えて話す。また、「相手に強出して手を遠手がいるので、彼に得点させないようマーク気をつけます」とも付け加えた。

「氷上の格闘技」とも呼ばれるアイスホッケー。試合が始まると、選手たちがぶつかり合う激しい攻防が展開された。本学は足を正的ないよう走りを意識したプレーでゴール前までパックを運ぶ。相手方も、パスで繋ぎ、序盤の攻めは互角であるかのように、先制打者のえんたどころ近井和幸選手（法2）が中前安打で出塁。後続も打て続き、早くも1点を先制した。本学の勢いは、その裏では、藤間貴大投手（政1）が落ち着いた投球を見せ、無失点に抑え、さらに二回表には坂本地選手（法1）と田口健太朗選手（仏1）の連打に加え、四球が続く、満塁を迎えたところで、青木康至選手（法2）が点適時打を放ち、2点を追加する。

初回から場内を沸かせた一つ目の点は、相手守備の隙の突き、ディフェンス陣を抜ける事が出来ない。だが、9分を経過したところで本学も意地を見せた。キーパーと対峙した鈴木翔太選手（商4）が正面から鋭いシュートを放ち、四球に追いつく。ここから互いに追加点を狙っていくが、ゴールを中心に本学は堅い守りを見せる。そのプレーに後押しされ、澤田翔選手（法2）が2点目を奪取。第1ピリオドを終了間際に有利に立った。

試合の流れを掴んで迎えた第2ピリオドは、開始から猛攻を繰り広げる。布田主将のアシストで巨野孝仁選手（商4）が点を決めると、今度は田原広選手（法3）のクサなパスを受けた澤田選手が、ゴールネットを再び揺らした。東京理科大の反撃に息をのむ場面もあったが、守備陣の活躍で乗り切り、さらに1点を加える。5-1と大きく差を広げて、完全に本学のペースに引き込んだ。

最終ピリオドに突入すると、わずか16秒後に鈴木選手がゴールを決める。しかし、その後、余裕から敵が生じたのか、ここに来て一点を攻め取れてしまった。今一度気を引き締め直した本学は最後に上点を返し、今度は逆に追いつく。ここから互いに追加点を狙っていくが、ゴールを中心に本学は堅い守りを見せる。ね。けれども、この後悪い流れに陥りそうだった取り返せたのは良かったです」と述べ、さらに「本学は少人数ですが、今後も一丸となって練習を重ね、2部昇格を目指します」と語る。息が合う染まるリンク場の寒さとは対照的に、試合は白熱したものであった。この先も、彼らは決めぬ熱意を胸に、目標に向けて挑み続ける。（和田真理子）

氷上の闘い見事制す

アイススケート部ホッケー部門

巧みなスティックさばきで観客を魅せた澤田選手（左）

緊張感切らさず

弓道部　女子

集中し、的を見据える菅野主将

10月19日に、中央大学多摩キャンパスにて成21年度東京都地区リーグ戦が行われた。対戦相手は国士舘。昨年は、惜しくも、落ち着いて的に射ることができず、丁寧に取り組み、自分達の実力を出し切りたいです」と意気込み語った。

この試合は4人一組で1人につき4射ずつ放ち、16射ごとに両大学が交互に道場に入る。この16射を「立」と呼び、壱の立から伍の立までの合計80射の的中数を競っていく形式だ。先攻は同士学舎が掛け合い、集中力を高めつつ、次へ。

中盤は互角の展開。選手達は、「これまでは後半でペースが乱れることが多かったのですが、今回は持続できました」と述べ、「ノンボール部門」で本学が2位、「関東学生秋季リーグ戦」で本学が3位ブロック2位、「学整協大会」で本学が3位と、各種大会で上位を獲得した。

今回の勝利も意義の厳しい比重を占める競技である。今回の勝利は、これまでの練習で最終練し、培った成果だろう。（板垣亮平）

悔しい敗戦

バドミントン部　男子

単複共に活躍を見せた岩崎主将

10月19日、中央大学多摩キャンパスにて成21年度東京都地区リーグ戦が行われた。対戦相手は国士舘。昨年は、惜しくも、落ち着いて的に射ることができず、丁寧に取り組み、自分達の実力を出し切りたいです」と意気込み語った。

この試合は4人一組で1人につき4射ずつ放ち、16射ごとに両大学が交互に道場に入る。この16射を「立」と呼び、壱の立から伍の立までの合計80射の的中数を競っていく形式だ。先攻は同士学舎が掛け合い、集中力を高めつつ、次へ。

中盤は互角の展開。選手達は、「これまでは後半でペースが乱れることが多かったのですが、今回は持続できました」と述べ、「ノンボール部門」で本学が2位、「関東学生秋季リーグ戦」で本学が3位ブロック2位、「学整協大会」で本学が3位と、各種大会で上位を獲得した。

今回の勝利も意義の厳しい比重を占める競技である。今回の勝利は、これまでの練習で最終練し、培った成果だろう。（板垣亮平）

FLASH BACK

アイススケート部フィギュア部門　安東 和子さん（法4）

自信が導く堂々の王冠

昨今、日本人選手の華やかな活躍で注目を集める フィギュアスケート。本学においても、目覚ましい選手がいる。今回は安東和子さん（法4）にお話を伺った。

安東さんがフィギュアスケートを始めたのは小学生の時。しかし当時は2年間で辞め、その後クラシックバレエやダンスに慣れ親しんできた。しばらくリンクから離れた安東さんが、大学ではこれまでに培った柔軟性を活かそうと、再びフィギュアを始める。

安東さんが電視しできた試合の一つが、3年時から出場してきた東日本インカレだ。今年は本大会に出るために、自身の滑りの最終調整に力を注いでいた。

来年4月の全国大会、大学フィギュア界一番の晴れ舞台である。昨年度は東日本インカレを通過できたことに安堵してしまい、全国大会で力を発揮しきれなかった。だが今年度は彼女によって4年間の集大成である。抜かりない演技を目指し、今は日々精進している真最中だ。「苦手に良い印象を与えれば、また流れるのかなと思います」と抱負を語る安東さん。

「練習に慣れた分、大学フィギュアの観客をジャッジの目によって非常に緊張しましたが、部員の応援が大きな力になりました」と話す。東日本インカレを終えて、「練習で体得した技によって、自信を持って臨めたのが今回の1位に繋がったのだと思っています」と彼女は答える。その結果、安東さんは東日本インカレの第一関門を突破。今回は、ストレートに勝ちたいという強い気迫溢れるプレーで攻める。主将のこの姿を見つ、ベンチの応援にも熱が入る。序盤は若干ぎこちなかったが、じわじわと緊張を広げていくかのようだ。なんとか追い着こうと必死に向かっていくが、実力差は埋められず、ストレート負けとなる結果になる。これで全体の最終的な順位は1-4となり、今年の甲南戦は幕を閉じた。

試合後、岩崎主将は「やっぱり、やるからには勝ち気を忘れず挑みたいと思います」と、真剣な面持ちで語った。

今回は単複合計5試合の団体戦で行われる。本学は相手から、試合開始、岩崎晴志選手（法3）、ペアを組んだ、第二ダブルスと第一ダブルスを落としてしまう。この時点でチームとしての敗北は決定してしまいます。しかし、やるからには勝ち気を忘れず挑みたいと思います」と、真剣な面持ちで語った。

今回は単複合計5試合の団体戦で行われる。本学は相手から、試合開始、岩崎晴志選手（法3）、ペアを組んだ、第二ダブルスと第一ダブルスを落としてしまう。この時点でチームとしての敗北は決定してしまいます。しかし、やるからには勝ち気を忘れず挑みたいと思います」と、真剣な面持ちで語った。

第一シングルスは、第一試合、岩崎晴志選手（法3）が活躍された。新体制に入ったばかりの本学、これからの奮闘に期待する。（谷口竜基）

TOPICS

【バレーボール部男子】▼関東大学秋季リーグ5部6部入れ替え戦▼対成蹊大3-0　5部昇格

【硬式テニス部男子】▼▼関東大学秋季リーグ戦▼対成蹊大6-3▼対一橋大6-3▼対立教大5-4▼対明海大4-5▼対横浜国立大2-7　4部3位

【クロス部男子】▼関東学生秋季リーグ戦▼対横浜国立大7-3▼対駒澤大7-3▼対東文化大5-7▼対神奈川大7-3▼対明海大3-6▼対立教大4-5▼対横浜国立大2-7　4部3位

【剣道部男子】▼第52回関東学生期戦　9勝6敗5分　1位

【剣道部男子】▼第52回関東学生期戦▼対東京理科大36-31▼対一橋大32-27▼対慶大33-33▼対埼玉大41-16　4部2位

【ノンボール部門男子】▼関東学生秋季リーグ戦▼対専修大31-37▼対横浜国立大37-28▼対慶大36-31▼対一橋大32-27

【ノンボール部門男子】▼▼関東学生秋季リーグ戦▼対専修大31-37▼対横浜国立大37-28▼対慶大36-31▼対一橋大32-27

【ノンボール部門男子】▼▼関東学生秋季リーグ戦▼対専修大31-37▼対横浜国立大37-28▼対慶大36-31▼対一橋大32-27

デスクの片隅

「一期一会」

大学新聞社　宮下秀樹

「一期一会」とは、茶道の用語で、「一生に一度きりの出会いを大切にしていきたい。（桃